

授業科目名	人体構造学Ⅱ (Structure of human body Part II)		
対象学年	2年生	単位	7単位
科目責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学
授業方法	講義および実習中心，印刷物配布，スライド投影，光学顕微鏡観察，人体解剖学実習，学生による発表		
概要	<p>「医学一般」の「個体の構成と機能」 「人体各器官の正常構造と機能，病態，診断，治療」の「人体各器官の正常構造と機能」 「全身に及ぶ生理的変化，病態，診断，治療」の「成長と発達」「加齢と老化」</p> <p>に関連する項目を扱い，以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。 ・人体の構造が持つ機能的意義を理解する。 ・人体の構造が形成される個体発生の過程を知り，その機構について考察する。 ・人体の構造とその形成過程について臨床医学の面からも捉える。 <p>以上のことを通じ，人間の尊厳と生命への畏敬の念を養う。</p>		
到達目標	<p>「人体構造学」は，次のユニットからなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統解剖学 2. 人体解剖学実習 3. 組織学 4. 人体発生学 <p>それぞれの目標・内容については，別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
講義日程	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <p>なお，履修者は全員，2026年6月7日(日)に行われる予定の慰霊祭に出席する。 さらに，2026年秋頃に予定されているご遺族へのご遺骨返還に立ち会う。 いずれも忌引きなどやむを得ない理由による欠席以外は認められない。 また，いずれも葬儀と同様の服装が必要となるので，それまでに相応しいものを整えておく。</p>		
評価項目	試験の成績，および，講義・実習への参加態度など。 詳細は別に掲載する各ユニットの項を参照。		
評価法	<p>別に掲載する各ユニットの成績を総合して評価する。 ※総合評価の如何に関わらず各ユニットの成績が不良の場合は不合格とする。 特に延べおよそ280時限を費やす系統解剖学講義と人体解剖学実習を通した人体構造の理解度を問う解剖学総合試験の成績が不良の場合は不合格となる。</p>		
予習・復習へのアドバイス	別に掲載する各ユニットの項を参照。		
履修上の注意 アドバイス	<p>解剖学はそこに何があるかを観る（単に『見る』ではない），他のものと見分ける，有るのか無いのかを見定める学問である。教科書や図譜に書（描）かれているものを暗記する学問では断じてない。各々が自分自身の五感を使って『理解』するものである。教科書や図譜どおりの人体はこの世に存在しない。問題意識を持って探究する姿勢が大事である。</p> <p>厳しい競争を勝ち抜いてきた多くの医学生にとって，解剖学は人生で初めての大きな壁となるかもしれない。膨大な語彙と立体構造，時間軸（発生）が作り出す多次元の世界に圧倒されないよう，枝葉にとらわれずにまずは幹を見定めることが重要である。</p> <p>多次元の世界で『迷子』になったら，1年生で履修した「人体構造学Ⅰ」の講義資料や試験，図や写真の多い解剖学教科書（「カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで」井上貴央（監訳），西村書店，2003）を読み返してみよう。あるいは，より簡単な解剖学の書物を通読してみるのもよい。例えば「入門人体解剖学（改訂第5版）藤田恒夫，南江堂，2012」や「入門組織学（改訂第2版）牛木辰男，南江堂，2013」などが良いかもしれない。</p>		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		